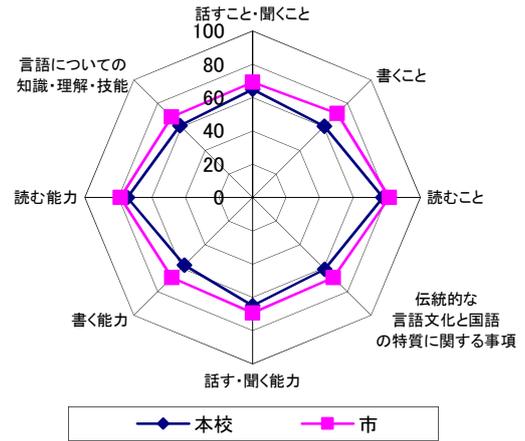


宇都宮市立陽南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	65.0	69.3	73.4
	書くこと	60.7	71.3	74.6
	読むこと	77.8	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	60.9	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	65.0	69.3	73.4
	書く能力	57.4	68.1	71.7
	読む能力	74.6	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	61.2	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

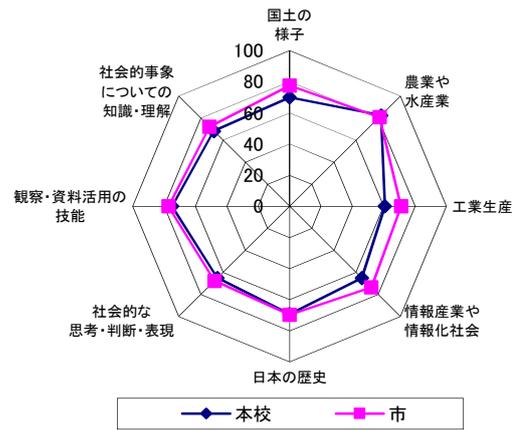
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>●校内正答率は65.0%で、市の平均正答率を4.3ポイント下回った。特に、話し合いの内容をまとめ、記述式で答える設問に対する校内正答率は19.0%で、市の平均正答率を10.9ポイント下回った。記述式で文を書くことに課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を簡単な文章でまとめることができるよう、国語の授業だけでなく他教科においても、話を聞きながらメモを取るような活動を多く設定する。集中して話を聞いたり、即座に聞いたことを言葉に表したりする活動を繰り返し行っていく。</p>
書くこと	<p>●校内正答率は60.7%で、市の平均正答率を10.6ポイント下回った。特に、理由や事例を挙げて自分の考えを書く設問に対する平均正答率は43.7%で、市の平均正答率を18.9ポイント下回った。理由や事例を挙げることに課題が見られる。</p>	<p>・授業中、自分の考えを書く活動を多く設定する。その際、事実は客観的に、自分の感想や意見と区別して書くよう指導していく。さらに、国語の授業だけでなく、学校行事の後の振り返りを書いたり、社会科や総合的な学習の時間などの授業で、資料から読み取った内容を適切に書き表したりするなどの活動を多く設定し、書くことに慣れるようにしていく。</p>
読むこと	<p>●校内正答率は77.8%で、市の平均正答率を3.7ポイント下回った。特に、説明文の内容を読み取る設問に対する校内正答率は54.4%で、市の平均正答率を13.5ポイント下回った。 ○物語文の場面の描写と登場人物の心情を読み取る設問に対する校内正答率は96.2%で、市の平均正答率を2.3ポイント上回った。学校図書館教育の研究を推進した結果と思われる。</p>	<p>・説明文の内容を的確に押さえるために、筆者の考え、その理由や事例、構成の仕方などに注意しながら、説明文の要旨を読み取っていく指導を繰り返し行う。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>●校内正答率は60.9%で、市の平均正答率を7.2ポイント下回った。特に漢字を書く設問では校内正答率は、11.4%で、市の平均正答率を28.3ポイント下回った。尊敬語の使い方の設問では、校内正答率が15.2%で、市の平均正答率を0.6ポイント下回った。 ○漢字を読む設問では、4問中2問が校内正答率100%だった。</p>	<p>・漢字の習得では、漢字練習だけでなく、連絡帳や様々な教科のノートなど、日常的に書く文章の中で適切に漢字を使うことができるように指導していく。さらに、国語の授業では、漢字のもつ意味を確かめたり、同音異義語の使い方の違いに触れたりする。漢字辞典や国語辞書を使って、自分で調べる習慣も身に付けられるよう指導していく。</p>

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	70.0	77.5	74.0
	農業や水産業	82.6	81.1	73.7
	工業生産	60.8	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	65.2	73.7	63.2
	日本の歴史	69.3	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	65.1	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	74.9	77.3	75.5
	社会的な事象についての知識・理解	68.4	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

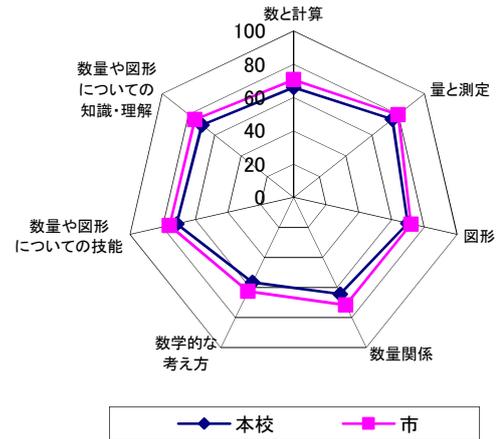
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	●校内正答率は70.0%で、市の平均正答率を7.5ポイント下回った。特に、日本周辺の海洋名についての設問、森林の干ばつについての設問に対する校内正答率はそれぞれ65.8%、69.6%で、市の平均正答率をそれぞれ14.3ポイント、13.3ポイント下回った。	・学習時に地図帳で確認するだけでなく、身近なところに地図帳を置いたり、世界地図を掲示したりして、日本の周りの海洋や、世界の様々な国や都市の位置などが確認できるようにし、既習の知識の定着を図る。
農業や水産業	○校内正答率は82.6%で、市の平均正答率を1.5ポイント上回った。特に、日本の食料生産がかかえる課題についての設問、米の生産がさかんな地域についての設問に対し、それぞれ校内正答率は64.6%、96.2%で、市の平均正答率をそれぞれ6.1ポイント、2.3ポイント上回った。	・資料を読み取る設問に対する解答は、やや市の平均正答率を下回った。知識・理解だけでなく、資料を見て、何が分かるかを考える活動を授業に多く取り入れていく必要がある。
工業生産	●校内正答率は60.8%で、市の平均正答率を10.3ポイント下回った。特に、工業地帯・工業地域の立地についての設問に対し、校内正答率は62.0%で、市の平均正答率を12.2ポイント下回った。	・工業地帯・工業地域の立地について、学習時に理解するだけでなく、なぜ工業地帯・工業地域がそこにあるのかを思考・判断し、自分の言葉で表現する活動を取り入れる。
情報産業や情報化社会	●校内正答率は65.2%で、市の平均正答率を8.5ポイント下回った。特に、身の回りのメディアに関する設問に対し、校内正答率は54.4%で、市の平均正答率を16.9ポイント下回った。	・「漢字1文字で表す」や「漢字2文字で表す」の設問に対する校内正答率が低い。社会科の授業だけでなく、普段の生活の中で、読書量を増やしたり、「文章を書く」活動を取り入れたりして、語彙力が身に付くようにしていく。
日本の歴史	●校内正答率は69.3%で、市の平均正答率を0.4ポイント下回った。大和朝廷による国土支配について、記述式で解答する設問に対してのみ、校内正答率は15.2%と低く、市の平均正答率を11.7ポイント下回った。 ○室町時代の能、江戸時代の身分制度、明治時代の殖産興業、それぞれの設問に対する校内正答率は、68.4%、68.4%、70.9%で、市の平均正答率をそれぞれ5.4ポイント、6.2ポイント、7.4ポイント上回った。	・歴史への関心は高く、知識も豊富である。記述で説明することが苦手なので、学習時に「なぜ」という発問を投げかけ、その問いに対し、自分の言葉で説明するという活動を多く取り入れる。さらに、国語の授業や日常生活の中で、「文章を書く」活動を多く取り入れていく。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	66.2	70.8	65.9
	量と測定	75.3	79.9	77.0
	図形	69.8	71.8	74.6
	数量関係	64.3	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	56.7	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	71.4	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	69.9	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

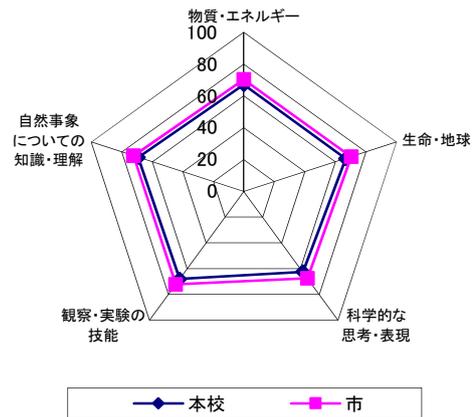
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は66.2%で、市の平均正答率を4.6ポイント下回った。 ○「小数第一位×小数第一位」の計算の設問では、市の平均を1.2ポイント上回っており、基本的な計算技能が身に付いていると言える。 ●図を見て、小数倍の文章問題を解くための乗法の式を選ぶ設問では、市の平均を9.8ポイント下回っており、課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・分数や小数の交じった計算を復習し、基本的な計算力がさらに身に付くよう指導していく。また、児童の実態に応じて取り組む課題の量や質を選べるようにすることで、個に応じた学習の定着を目指していく。 ・立式した際には、なぜそのように考えられるかなど、図や表、数直線を使って説明する学習活動を設定し、思考力、判断力、表現力の向上を目指していく。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は75.3%で、市の平均正答率を4.6ポイント下回った。 ○道のりとかかった時間から時速を求める式を選ぶ設問では、正答率が93.7%と市の平均を3.9ポイント上回っており、学習内容の定着が見られる。 ●ひし形の面積を求める式についての理解を問う設問では、市の平均を下回っており、課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひし形の求積の問題のみならず、公式に当てはめるだけではなく、その式が、今解いている問題のどの位置関係にあたるかなどを考えながら解けるよう指導していく。 ・実際の場面を想定させ、図に表すなどして、公式の適切な活用ができるよう指導する。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は69.8%で、市の平均正答率を7.4ポイント下回った。 ○五角形の内角の和を求める式を選ぶ設問では、市の平均を上回っており、学習内容の定着が見られる。 ●三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点についての理解を問う設問では、市の平均より低く、課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形や四角形の作図や、折ったり切ったりする操作活動を多く取り入れ、視覚的にまた、体験的に理解できるような機会を多く設定する。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ●校内正答率は64.3%で、市の平均正答率を2.0ポイント下回った。 ●比例や反比例の関係を、xとyを使って式に表すことや、表を読み取り、表にあてはまる数を求める設問では、市の平均を下回っており、課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの数量関係を理解するために、ICTを活用して表を縦に見たり、横に見たりするなど、視覚的に変化をとらえる活動を多く取り入れ、比例・反比例の定義や性質の理解につなげていく。 ・身の回りから比例・反比例の関係にある二つの数量の関係を見つけたり、その関係を用いて問題を解決したりする活動を多く取り入れることで児童の思考力・判断力・表現力を高めていく。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	67.1	70.3	69.0
	生命・地球	66.8	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	62.5	67.5	66.4
	観察・実験の技能	68.1	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	69.3	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○「ふりこのきまり」では、ふりこの1往復の動きについての設問で、市の平均正答率を上回った。</p> <p>○「もののとけ方」では、二酸化炭素と反応する石灰水の設問と、ろうそくが燃える前後の空気中の気体の変化の設問で、市の平均正答率を5ポイント以上上回った。</p> <p>●「電流のはたらき」や「水よう液の性質」では、各設問の正答率が市の平均正答率を下回った。</p>	<p>・実験の結果を推測するような設問に対しては、グループで話し合いながら自分の考えを深めていくような場を普通の授業から設定し、理由や根拠を明らかにした上で予想を立てさせたい。</p> <p>・考察の際には、自分の言葉で説明する場面を多く設け、実験結果をもとに筋道を立てて説明できるようにする。</p>
生命・地球	<p>○「植物のつくりとはたらき」では、実験の結果に関する考察の設問で、市の平均正答率を8.3ポイント上回った。</p> <p>○「生物とかんきょう」では、あらゆる食べ物のもとをたどると植物に行き着くことを問う設問や、生物と空気の関わりを問う設問で、市の平均正答率を上回った。</p> <p>●「植物の発芽と成長」や「植物のからだのつくりとはたらき」では、各設問の正答率が市の平均正答率を下回った。</p>	<p>・対象実験を行う際には、条件を揃えることの必要性に触れ、目的をはっきりさせながら実験を行うようにする。</p> <p>・「動物のからだのつくりとはたらき」などの知識を問うような設問に対しては、ノートに整理して記入させたり、映像資料や図書資料等も活用したりして理解を深めていきたい。</p>

宇都宮市立陽南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的な学習習慣を身に付ける工夫	「陽南授業のきまり」を設定し、基本的な学習習慣を身に付け、集中して授業に取り組む態度を養う。	「授業の始まりは席につく」「先生から指されたら返事をする」「先生の話最後まで聞く」などの基本的な生活習慣について、昨年度に引き続き肯定割合が90%を超えている項目が多い。
学校図書館教育と関連させた学習の取組の工夫	読書ボランティアを活用した読書の幅を広げる読書活動の工夫やグループ活動を取り入れた調べ学習の工夫を行い、読書に興味を持たせたり、情報活用能力を向上させたりする。	6年の国語の物語文での登場人物の心情を読み取る問題では、市の平均回答率を上回り、96.2%の平均回答率だった。読書活動を推進した結果だと言える。また、家での休日の読書時間については、5つの学年で、市の結果よりも長い傾向があった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査、学習内容定着度調査の結果を見ると、市の平均正答率を下回る設問が多かった。特に、国語において、自分の考えを書くことを苦手とする児童が多い。「指定された長さで文章を書くこと」「書こうとすることの中心を明確にして文章を書くこと」など、条件を指定された意見文を書けずに、無回答としてしまう状況が見られる。2か年に渡り、学校図書館教育の研究を進めたことで、読書を推進する土台作りはできていると考えるので、それらの研究結果を生かしていきたい。また、読書を通じて語彙を増やしたり、文章を書く際の参考に図書資料を活用したりするなどして、意見文を書く活動の時間を増やし、「書く力」を伸ばしていきたい。